

2006年3月10日

BMW Motorrad World News 2006 Vol. 6

* 以下のニュースは BMW AG 発行のニュースレターの翻訳であり、日本市場への導入とは関係の無い場合があります。

- ◆ 新しいBMW F 800 Sが発売前に勝利
- ◆ HP2 エンデューロで、最北端から最南端まで
- ◆ HP2 エンデューロ、キング・オブ・ザ・ヒルに輝く

【新しいBMW F 800 Sが発売前に勝利】

今月上旬、フロリダで行われた世界的に有名なスタント・ウォーズに、新しいBMW F 800 Sが初めてその姿を現した。ライダーのクリスチャン・ファイファーは、並み居る競合を打ち負かして優勝を手にした。



ファン待望の2気筒800ccミドレウェイト・スポーツの発売は数ヶ月先だが、BMW Motorradの新しいファクトリー・ライダーは、名高いフリースタイル・スタント大会でのバイクが満点のスコアで勝利できることを見せつけた。

クリスが昨年HP2 エンデューロで見事なBMWデビューを果たしたことは、オフロード・ファンの記憶に新しいだろう。彼はドイツのクロスカントリー選手権、オーストリアの世界的に有名なエルツベルグ・ロデオ、カリフォルニアのバハ500および1000マイル・レースなどの様々な国際レースで、フィンランド人ライダーのシモ・キルッシやアメリカのジミー・レヴィスと競り合った。

しかし、優れたオフロード・ライダーであることはクリスの多彩な才能のひとつに過ぎない。彼は“フリー・ライディング”的世界でも、数々の技や記録でよく知られている。115度で走るウィリー、高速のウィリー・サークル、ジャンプ台なしで33人を飛び越える技などがそうだ。そのため、クリスが新しいBMW F 800 Sの持つポテンシャルを見抜き、2006年の公式スタント・バイクとしてこのモデルを使うことを決めたのも、むしろ当然と言えるだろう。

スタント・ウォーズは、まさにアメリカ最大のストリートバイク・フリースタイル選手権であり、初めて見るようなバイクのスタントや技が披露される。年に2日間行われるこの華やかな祭典には、世界中からスタント・ライダーの精鋭が結集し、フロリダ州レイクランドのドッグ・ストリップで行われた。ライダー達は賞金15,000ドルと10,000ドルの賞品を懸けて競い合った。



昨年の世界チャンピオンである彼は、写真撮影のためにイタリアを訪れていたため、今回練習する時間があまりなかった。しかしF 800 Sで満点を叩き出すことには全く影響しなかった。

「この結果には非常に満足しているよ」とクリスは語る。競技ではそれほどリスクを冒すことはしなかったけれど自信はあった。そして最終的に満点(100点満点中100点)を取ったんだ。たぶん僕はコンテストに合ったやり方をしたんだよ。主催者側が求めていたのはバイクの“プレイ

クダンス"じゃなくて"ロックンロール"。だからロックンロールを見せたんだ」

このイベントには、世界のトップ・スタント・ライダー100人以上が参加した。それが15人に絞られ、優勝を懸けてバトルが展開された。常に技の革新者であるクリスは、コンテストで新しい技をいくつか披露した。



「フリーハンドのウィリー・サークルから、230度ターンの“ストッピー”でフィニッシュする技を披露するのはこれが初めてだったんだ。一般的なスタント・ライダーは170度か180度のターンしかできないけど、僕は会場を見渡して、観客と出場者を隔てるコンクリートの壁を競技の一部に利用しようと決めたんだ。審査員は常に新しいものを見たがっているし、見に来てくれた人も平凡な技は求めてない。それで僕は、壁の上に飛び上がりって観客のすぐ近くに行こうと思ったんだよ」

興味深いことに、クリスはF 800 Sをほとんど改造していない。このことでF 800 Sは間違いなくあらゆるスタント・ライダーに注目されることになるだろう。僕のスタント・バイクは実際、標準モデルにとても近いんだ。コントロール力を上げるためにエンジン・ブレーキをよりスマーズにする必要があって、それでギアをかなりクロス気味にして、マッピングとセットアップに取り組んだ。そしてハンドルバーからフェアリングを取り外して、ウィリーバーを付けた。まあそんなところだよ」

唯一の2気筒マシンとして、アメリカの観客や主催者はF 800 Sのパフォーマンスに対し大きな関心を寄せた。



「会場にいた人の多くは、僕がK 1200 Rに乗ると思っていたんじゃないかな。だから、それに反してF 800で登場すると、僕がどんな技を披露するのかすごく興味を持ってくれた。もちろん、競技の後はパワーや気筒数なんかの質問が殺到したよ。一人が3気筒に乗っていた他はみんな4気筒マシンだったから、そんな奴らを打ち負かそうとチャレンジを楽しんだんだ」

クリスはチャレンジというものをよく知っている。35歳のクリスは、来月バイエルンのゲッテン・スキーセンターで開催される雪山を駆け上るレース(www.snow-speedhill.com)にHP2エンデューロで出場し、昨年HP2エンデューロがデビューを優勝で飾った、世界的有名なオーストリアのエルツベルグ・ロデオ(www.erzberg.at)にも出場予定だ。エルツベルグは最も有名でレベルの高いエンデューロ・スポーツ・イベントの一つで、「アイアン・ロード(鉄の道路)」として知られている。

【HP2 エンデューロで、最北端から最南端まで】

2005年9月に発売開始されて以来、BMW MotorradのHP2 エンデューロは世界中のオフロード・ファンの心をとらえてきた。この世界で最もパワフルなエンデューロ・バイクは、すでに“バハ 1000”や“エルツベルグ・ロデオ”などの有名なレースに参戦してきたが、設計者ですら想像することができなかつたことを成し遂げた。

ダカール・ラリーの第一人者で、オフロード・ライディングのエキスパートである PG・ルンドマークは、ノルウェーのノルドカップ(ヨーロッパ最北端)から南アフリカ最南端のケープタウンまでを、HP2 エンデューロで駆けぬけるという偉業を達成したのだ。



7週間以上を要したこの旅では、ルンドマークの卓越した決断力とライディング能力だけでなく、劣悪な地形におけるHP2 エンデューロの素晴らしいパフォーマンスの実例までも示してくれた。最大出力 105ps の BMW エンデューロ・バイクは、世界のオフロード選手権で十分に上位を狙える。しかし 22,000km にも及ぶ 2大陸横断の旅に挑戦することを選ぶ人はほとんどいないだろう。

「ダカール・ラリーでは HPN をベースにした BMW バイクに乗ったけど、HP2 エンデューロにとても似ていた」とレンドマークは語る。「この旅は、僕がずっと夢見ていた旅だったんだ。それを HP2 で実現できて、このバイクの能力を示すことができるなんて最高のチャレンジになると確信したよ」



2005年12月21日、ルンドマークはスウェーデンの自宅を後にした。翌日ヨーロッパ最北端のノルドカップを出発し、彼の旅が始まった。ルンドマークがバイクに手を加えたのは、雨よけのためにフライスクリーンを追加したのと、リアのサブフレームにサブ燃料タンクを搭載したことだけだった。旅の前半は大半が雪の中での走行になると予想されたので、ヨーロッパではスパイク・タイヤを使用した。

「バイクには何の問題もなかったよ」とレンドマークは語る。「凍てつくような寒さの北ヨーロッパから灼熱の中央アフリカまで走ったけど、故障は一度もなかった。原子時計と同じくらいの信頼性があったよ」

もちろんルンドマーク一人で全旅程を走破したわけではない。2人編成のサポート・チームが同行し、エジプトでは親友のルーカスとイアン・レンディン兄弟も加わった。この兄弟はレンディン・オイル社のオーナーであり、2人共 HP2 エンデューロに乗っていた。この旅の目標は、アフリカの孤児基金、およびアフリカに飲料水を供給するために百万ドルを募ることにあった。今までのところ、90万ドルまで集まっている。

この旅でランドマークは、ノルウェーからフィンランド、スウェーデン、ドイツ、チェコ、ハンガリー、ルーマニア、ブルガリア、トレス、シリア、ヨルダンを抜けてエジプトに入った。エジプトではイランヒレーカスが同行し、3人でエチオピアを抜け、ケニア、ザンビア、ボツワナを通って最終目的地である南アフリカに入った。

この旅のスケールの大きさからも想像できるように、ランドマークには非常に面白い話が多くある。例えばプラハでは、ホテルの部屋を予約していたにもかかわらず、ガレージで夜を明かした。バイクが盗まれると困るので、夜通して見張っていたのだ。



不思議だけど、質問された時にはあまり思い出せなくて。色んなことを次々思い出すのは、ベッドで横になっている時なんだ。色んなことがあったよ。ヨルダンではしばらく死海と平行に走ってたんだけど、どうしても泳ぎたくなって泳いでみた。死海の水はかなり塩分が強いから、「浮きたかった」というべきかな。あとは、耳をつんざくようなビクトリア滝が印象に残っている。幅が1600m以上、高さが100m以上あるビクトリア滝

は、とにかく信じられない光景だった。まさに「百聞は一見にしかず」だったよ」

「アフリカも冒険以外の何者でもなかった。停まって休憩していると、巨大なゾウが目の前の道路を横断していくんだ。ルーカスがそのゾウに近づいて、ゾウと写真を撮ろうとしたんだけど、その時ゾウがルーカスに突進して来て、木が2本倒れてきたんだ。それでもう写真はあきらめたよ」



52日間にわたる旅は、2月12日にケープタウン(アフリカ最南端)に到着して終わりを迎えた。ランドマークは疲れきっていたが、意気揚々と次のように語った。「ほんの二言三言で気持ちを語るのは不可能だね。南極を目の前にして、アフリカ大陸最南端の岩に座れるなんて夢みたいだった。この52日間で世界は狭いものだと思えたけど、本当に素晴らしい旅だったし、HP2エンデューロは僕の期待に十二分に応えてくれたよ」

BMW HP2 エンデューロ、キング・オブ・ザ・ヒルに輝く

BMW Motorrad オフィシャル・ライダーのシモ・キルッシは、土曜の夜に行われたスノー・スピードヒル大会において、HP2 エンデューロで勝利に輝いた。様々なメーカー、様々なタイプのエンデューロ・バイクやモトクロス・バイクと共に一流の大会で優勝している彼は、バイエルンのリゾート地ビショフスヴィーゼンのゲッテン・スキーセンターで初めて開催されたスノー・スピードヒル大会でも優勝した。



今回の優勝により、HP2 エンデューロがこれまで参戦してきた“エルツベルグ・ロデオ”、“バハ 1000”、“バハ 500”、そしてドイツ、イタリア、オーストリアのクロスカントリー選手権など数々のレース史に新たな栄冠が加わった。

スノー・スピードヒルはユニークなイベントで、これを極めるためにはやはりユニークなマシンが必要だ。HP2 エンデューロが持つパワーとハンドリングのコンビネーションと(大会に出場できるのは2気筒バイクのみ)、シモ・キルッシが持つスキルと勇気は絶妙の組み合せだった。

大会に備え、午後 5 時 30 分から練習が開始された。60 人のライダーがオフロード・バイクを操り、投光器で照らされた全長 800m のゲレンデの頂上に駆け上がる迫力ある光景を観戦しようと、多くの観客が集まった。

その日の夜に行われた大会では、午後 11 時頃にスノー・スピードヒルの決勝戦を迎える。興奮は最高潮に達した。BMW Motorrad チームのオフロード・ライダーであるシモ・キルッシとクリス・ファイファーの両名とも予選を勝ちあがり、勝利の栄冠を争った。



“フライング・フィン(空飛ぶフィンランド人)”の異名を持つキルレッシは圧倒的な勝利を収めた。一方ファイファーは6位入賞を果たした。

「HP2 エンデューロは、このユニークで極めて過酷なレースにふさわしい、素晴らしいバイクだよ」とシモは語る。「大きなパワーが欲しかった。HP2 は十分パワーがあるし、トリッキーな状況でも本当に操りやすいバイクだったよ」

クリス・ファイファーは、「大会は全体的にすごく楽しくてユニークな経験ができた。このスノースピードヒルがシリーズ戦で、今回が第1戦だったらしいのに」と語る。



キルレッシとファイファーには大会中、もう1つプレッシャーがあった。実は BMW Motorrad モータースポーツ部門の本部長ベルティ・ハウザーが、HP2 エンデューロに乗って BMW のオフィシャル・ライダー達と競い合っていたのだ。2人は、他メーカーとの熾烈な争いに打ち勝つだけでなく自らの上司にも勝たねばならなかったのである。

大会の詳細および結果については、ウェブサイト www.snow-speedhill.com で確認できる。